

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300015
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	グループホーム 絆
所在地	鹿児島県南九州市川辺町高田1238番地4 (電話) 0993-58-3838
自己評価作成日	令和3年11月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年からの新型コロナウイルス蔓延は世界中に甚大な影響をもたらしており私たちの小さなグループホームにも大きく影響しております。職員の日常生活は制限され自分が施設の感染源となる恐れもある中での勤務であり職員は理解したうえででの仕事に従事しています。どこの施設でも同じ状況であると思います。そのような中で、利用者が生き生きと生活できるよう可能な範囲内でのケアを行っています。開設当初から一貫した「食を楽しむ」姿勢は変わりなく続けています。コロナ終息が、まだまだ見通せない中で、自分たちの施設で、利用者のために何ができるか？日々考えながら、地域の中には素敵な場所が埋もれていると気づきがあり小さな外出(ひまわり畑、高田水汲み場)を始めとして計画していきますが、以前のようにショッピング、外食、蕎麦打ち見学、音楽教室等、残念ながらまだまだ、開始する状況にはないと感じています。それでも、反対に、何が可能か？を試行錯誤しながら、利用者、職員共に進んで行きたいと思います。

利用者の尊厳を大切にすること、役割や楽しみ、居場所を持つて頂けるよう援助すること、地域とのつながりを大切にすることの3点を理念に掲げ、玄関と台所に掲示し、唱和することで意識付けを図っている。また、理念に沿って支援できているかを毎月の定例会議で振り返り、確認することで理念の共有を図り、実践につなげている。

特に献立表は作らず、当日の利用者のリクエストや冷蔵庫内にある食材を使用して調理している。日常会話の中で食べたいものを尋ね、当日リクエストに応えるなど柔軟に対応しており利用者に喜ばれている。コロナ禍のため外食に出かけられない日々が続いているが、季節毎の行事食を工夫したり、そば打ちや梅ジュース作り、ぼた餅作り等に利用者も参加して有意義な時間となるよう工夫している。菜園では季節の野菜を育て、収穫したものを食材として使用している。

夜間想定を含む災害訓練を年2回消防署立ち合いの下で実施するほか、毎月コンセント等電気器具の掃除を徹底している。台風や長雨による水害対策として近隣に避難場所を確保したり、「川辺みどり園」と避難協定を結び、実際に台風時に避難先として利用している。備蓄として飲料水やレトルト食材等を約2日分程度準備すると共にカセットコンロや懐中電灯、着替え等備品も準備している。また、台風時等による停電に備え事前に発電機を借りるなど万一の災害に備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	現在の理念が簡潔で職員も慣れ親しんでおり毎日申し送り時に唱和しているとともに実践につなげるよう振り返る	台所で申し送りや唱和をするため理念を台所内と玄関に掲示して意識付けを図っている。毎月の定例会で理念が実践できているかを振り返り、理念を日々の支援に反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に加入しているがコロナ禍ですべての行事が中止になり今は散歩時の交流が主になっている	自治会に加入し利用者と職員とで隣近所に回覧板を届けている。コロナ禍で地域行事は中止になっているが、毎日の散歩途中での挨拶や会話、近所からお裾分けを頂くなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小学生の訪問は中止になったが昨年末には代表が自分たちで育てた新米を持ってきてくださり今年のはちぎり絵の製作をいただき絆からは利用者が縫った雑巾を渡した。11月には民生委員との意見会を予定している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で昨年からは1回のみ施設の開催となっているが、貴重な意見をいただきサービスの向上に活かしている	会議はコロナの感染状況を見ながら実際に開催したり、書面に代える等して継続している。開催する場合は利用者や家族、行政職員や自治会長、民生委員等が参加して事業所の活動内容の報告や身体拘束適正委員会を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を始めとしてできるだけ協力関係を築けるよう相談等行っている。特にコロナ禍で相談報告がある	市役所には相談事がある時等に電話や訪問して助言をもらうほか、メール連絡やキャラバンメイト活動での交流がある。また地域包括支援センターからも入居状況の相談を受けるなど日頃から連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を定期的で開催して身体拘束をしないケアを目指している。それに関しての研修も定期的に行っている	身体拘束適正委員会を毎月の定例会と併せて実施するほか、年2回研修計画に組み込み身体拘束をしないケアについて話し合い確認している。日々の生活の中で行動を制限させてしまう言葉による拘束等、不適切な場面が見受けられた場合はその都度管理者やケアマネージャーが声を掛け注意喚起を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する内部の研修を繰り返すことにより全員が意識を高めるよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行い必要時には活用できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者、家族に対する説明をご納得いただけるようにできるだけ時間をかけて行い疑問点、不安な点には分かりやすく応じている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナ禍で面会制限を行っているが絆の職員だけで病院受診に連れて行ったときは主治医から聞いた本人の病状を電話連絡、ラインで伝えておりその機会に意見、要望をいただき反映させている</p>	<p>入居時に本人や家族、入居前のケアマネージャー、病院の相談員から情報を収集し、入居後も本人の意見や様子等からも思いを汲み取っている。また、家族からは受診時の報告や絆便りの送付について等、意見を受け対応するなど随時要望や意見を運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会、業務改善会議で職員の意見を聞く機会があるが、毎日の勤務の中で気づいた意見も反映できるよう努めている</p>	<p>申し送り時や定例会議等で職員の意見を聞くほか、職員が自由に意見を書き込める「連絡ノート」を準備し、業務内容の変更や連絡事項を記入し意見交換や情報共有を図っている。勤務表作成時は休みや夜勤の希望が反映できるよう調整している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎年職員の健康診断を行っている。それぞれの身体状況、家庭の状況等を把握して本人の努力、実績を確認の上で向上心を持って働けるよう努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍でしばらくは外部の研修がなくなり苦慮したが最近ではZOOM研修が増えてきてそれに慣れつつある</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県、地区のGH協議会に加入している。コロナ禍ではあるが昨年から役員として交流しており情報を頂いている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前は細かい聴き取りを行いその情報を全職員が共有して関係作りに努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族からは本人から聞けない情報を聴き取り家族の思いを確認している。特に入所初期は本人の様子をお伝えするよう努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の思いに耳を傾け、必要な支援ができるよう努めている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>それぞれの方のレベルを把握した上で本人の残存能力でできることをお願いする日々である</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「絆便り」を毎月発送して利用者の日常を個別にお知らせして情報を伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでと違いコロナ禍で思うような交流をできない状況下であり自由に行き来できていないのでその部分はこれからの課題であるが今はお互いに手紙、携帯電話、写真での記憶をとどめるよう努めている	コロナ禍のため買い物や外食など外出を控えているが、これまでの馴染みの関係が途切れないよう美容室に出かけている。徐々にコロナが落ち着いてきているため、10月以降は外出の機会を作っており、11月末にはみかん狩りを計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にはあまり関わりを求めない方、社交的な方、様々なので、それぞれに配慮した支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要であればサポートすること説明しており、経過を把握して支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴を把握して意向に沿ったケアができるよう、また、重度化した方にもその点を配慮している	日常会話の中で思いや意向を尋ねたり、うまく表現できない場合は日々の言動や様子等から汲み取っている。利用者の変化する思いを連絡ノートに記入し職員間で情報の共有を図ると共に日々の支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員がその方のアセスメントを共有してその人の生きざまを理解できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジャーのモニタリングによりその方の現状を確認してそれ以後の生活をどのようにサポートするか判断している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方に今どのようなケアが必要か関係者と課題を捉えて作成している。介護スタッフからのアイデアが大いに重要なことが多い	本人や家族の意向を基に申し送り時の利用者の状況報告と定期モニタリング評価記録、また主治医の意見も参考にしながらケアプランを作成している。定められた期間に捉われず利用者の状態に変化がみられた場合には速やかにプランの見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が個別のケース記録にその方の様子やこのようなケア、食事介助でこのような結果になった等記入して共有してケアマネが反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年からのコロナ禍で家族ができない部分をサポートすることが多くあったように感じる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で始まった月一回程度のマルシェ事業の参加の誘いがあるが現在はまだ参加できない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在はコロナ禍であり職員が受診には付き添っているが病院によっては代理受診を進められるところもあり職員が本人の状況を説明している	入居前のかかりつけ医の受診の経過を十分把握すると共に入居後もこれまでのかかりつけ医を基本に、職員と家族が協力して受診を支援している。受診時の情報はケース記録に記入し、家族にも電話で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設常勤の看護師が利用者の身体状況を把握して適切な受診、看護が受けられるよう支援している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時の医師からの説明には必ず立ち合い治療の経過の問い合わせ等行い関係を作っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化、終末期の説明を行い説明を受けた同意書をもらい、以後は必要時意思確認書で確認を行い方針を共有して支援している</p>	<p>入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」「事前確認書」「看取り指針同意書」を説明し、入居後も入退院や介護認定更新時等、状況に応じて再度説明し同意を得ている。これまでに看取りの事例はないが、家族の協力等により看取り支援は可能と考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生時のマニュアルの研修を行い備えている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の方を緊急連絡網に入っただき緊急時はかけつけてももらえる体制を取っている。避難については川辺みどり園と避難協定を結んでおり避難準備情報によって実際に避難を行っている</p>	<p>年2回夜間想定を含む災害訓練を消防署立ち合いの下で実施し、緊急連絡網に近隣者名を組み込み連絡手順の確認を行っている。水害に備え近隣に避難場所を確保している。食料などの備蓄や着替等の備品も整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの利用者の人格を尊重し、プライバシーの確保に努め声掛けや対応ができるよう努めている	言葉遣いや倫理の研修会を実施し、さり気ないトイレ誘導や羞恥心に配慮した入浴支援等、利用者の気持ちへの配慮を大切に考え日々接している。ポータブルトイレは日中使わない時はカバーを掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者は日常生活の中での会話に本人の思いが現れるので聞き漏らさないように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な決まりがあるが利用者によっては自室でゆっくり過ごしたり読書をしたりとそれぞれのペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴前日は明日の準備を利用者に介護者が付き添って行き本人の着たい服を選んでもらっている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べる楽しみ」を基本にして施設の食事を提供しておりそれぞれにできることを介護者と共に行い準備～片付けまでを行う日もある。現在はミキサ一食さみ食の利用者もいる	特に献立表は作らず、冷蔵庫にあるものや菜園で採れた野菜、随時買い物に行くなどして当日メニューを決めている。そのため、利用者の食べたいものがその日のうちに食卓に上がることができ喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在は2名の利用者について栄養、水分確保に問題あり、細かい記録を記入して支援している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれに適した方法での口腔ケアを習慣的に行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握、共有している。全員がトイレでの排泄であり夜間のみ転倒予防のためPWC使用している	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を支援している。夜間転倒防止のためポータブルトイレを使用する方がいるが、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは認知症の周辺症状にも影響するので水分補給等に配慮している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の設定はあるがいつでも入浴可能である。また、拒否がある方には無理強いをしないケアを行う	週3回午前中の入浴を基本としているが、汚染等状況に応じていつでも入浴は可能である。入浴したくないと言われた時は、声掛けのタイミングや話題を工夫して入浴に誘う等、無理強いしないよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの性格が違い現在は心配性の方もいる。声掛け等に配慮して工夫しているが、眠剤に頼る例もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服薬一覧表」ファイルを設置しており服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの個性に応じてその方が本人の思うように生活できるよう支援しているが、コロナ禍になり制限されている事柄が多い		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出他ほとんどの外出が行えない。10月は近隣のひまわり畑、高田水汲み場への外出に全員を連れていけたことが良かったと思う。11月はミカン狩りを計画している	コロナ禍で地域行事や外食に出かける機会が減ってしまったが、10月以降は感染者数が落ち着いてきたため、ひまわり畑見物等に出かけることができた。11月末にはみかん狩りに出かける予定であり、コロナ感染状況に応じて徐々に外出できるよう支援していく意向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在はお金を管理している方はいない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や知り合いに電話を掛けたり、最近ではラインビデオ通話を行っている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ほとんどの利用者が共用スペースで過ごす時間が多い。先日のひまわり畑でお会いしたご婦人から「絆のお年寄り生き生きとしている」とのお言葉を頂いたことでも介護者としては評価してもらっていると感じる</p>	<p>明るいフロアには利用者と職員が一緒に作った季節の作品が飾られ、タペストリーも季節毎に変えている。浴室は広く浴槽も大きいので、ゆっくり入浴することができる。トイレの手すりは充実しており、車椅子でも余裕をもって動作、介助できるスペースを確保している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースは広いのでソファで会話したり、うつらうつらと眠ったり思い思いに過ごしている。話し相手がおらず徘徊あるときは介護者が話し相手になっている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安全な私物は持ち込み可能である。それぞれに使い慣れた小物等を持ち込まれて活用している</p>	<p>エアコンと電動ベッド、タンスが備え付けられている。居心地よく過ごせるよう自宅から本や人形、ラジオなど馴染みの品を持ち込み、居室で過ごす時間も大切に考え、見守り、声掛けを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者に応じた環境作りに努めている。タンスの上には何かあると毎晩夜中に確かめに行く方もおり安全に生活が送れる工夫を常に行っている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない